

## 第一回理化学専門委員会（水銀部会）の概要

## 1 開催日時

平成15年9月5日（金曜日） 午後1時30分から4時まで

## 2 開催場所

都庁第一本庁舎33階 特別会議室N4

## 3 内容（検討結果）

## (1) 座長選出・副座長指名

座長：関澤 純（徳島大学総合科学部自然システム学科教授）

副座長：村上 紀子（女子栄養大学教授）

## (2) 議題

「水銀を含有する魚介類等の摂食に関する注意事項」についての検討

## 【検討概要】

## ア 水銀について

- ・メチル水銀と水銀の違いは？厚生労働省の公表した資料では両方が使われている。

水銀には、有機水銀と無機水銀がある。メチル水銀は有機水銀で、非常に毒性が強い。無機水銀は腎臓に影響が、メチル水銀は脳神経に影響がでる。メチル水銀は食物連鎖によって蓄積される。

- ・摂取されたものは除去できないのか？

半減期があるので、減ってはいく。

この「半減期があるので、減ってはいく。」という表現については、第2回の専門委員会の中で、「減ってはいくけれども、半減期がそれほど短くないので、消失には時間がかかる。」と訂正した方がいいという議論があった。

## イ 厚生労働省の発表について

- ・厚生労働省が事実に基づいてわかりやすく作ったつもりでも、消費者の方から見ると疑問に思うことがたくさんあるということがわかった。
- ・メカジキとキンメダイの消費については、地域性の問題が高いのではないかと。どのくらい食べているのかというのは全国平均を使っていると思うが、日本でどういう食べられ方をしているのかということの情報があった方が理解できるのではないかと。魚の種類について、若い世代はあまり考えずに購入していることも有り得る。
- ・メカジキ、キンメダイ、マグロについても実際の食べ方がきちんと調査されていないのに、個々具体的な名前をあげていることに抵抗がある。そのために、逆に消費者は混乱してしまったのではないかと。
- ・マグロの場合は、平均すると少なくなるが、一度にたくさん食べる人もいるかもしれない。種類だけでなく一度に食べる量も出していくべきである。
- ・魚を1種類ではなく、複数のものを食べていくこともある。1週間トータルしてどのくらい魚から摂取するのか？ということについても提示すべきではないかと。魚は水銀含有量の少ないものも多いものもある。それらを全部考えていかなければならない。

- ・魚の食事パターンを考えた発表の仕方をした方がいいのではないか。

#### ウ 摂取量の算出方法について

- ・摂取量の算出方法について一般の人には理解されていない。このようなことも含めて、もっと丁寧な説明が必要ではなかったのか。もう少し丁寧なわかりやすい資料などを提供するということが、東京都では可能ではないか。
- ・キンメダイは季節の問題もある。冬食べるものなので、国民栄養調査の時期に、ちょうど多く食べているという可能性がある。
- ・諸外国ではどのような算定をしているのか？我が国においては、国民栄養調査しかないが、今後もこれを使用していくのか？
- ・国民栄養調査は、毎年同じ方法で長年行われているという国際的に高い評価を受けている調査であるが、栄養摂取状況についての調査結果を今回のような水銀の件に当てはめてしまうのは難しい。
- ・都民は、サメやイルカなどほとんど食べない。その辺を加味して出して欲しい。マグロなどは昭和 48 年当時対象外だった。マグロの中にはセレンが入っているので大丈夫だといわれていた。マグロのセレン説が否定されるのであれば、マグロはきちんと出していかなければならない。
- ・水産物については、地方や国によって呼び名が異なることに気を使って欲しい。
- ・メカジキやキンメダイのどの部分という議論は国の中では行われていなかった。部位によって違うような気がするが。

#### エ 国の発表後の影響について

- ・風評被害の実態、中央卸売市場の価格や需給の状況、流通量の変化、都民の変化というデータはないか？今回妊婦という限定があったが、問題を大きくした原因は、消費者より流通の方の先走りが多く関与しているのではないか。先取りして棚に置かないということが起きている。必ずしも、消費者が過敏になっているのではない。
- ・売れないだろうと思っているものを置きたくないというのがスーパー実態。業者には業者の理屈がある。風評被害のメカニズム等についても調べた方がよい。
- ・パニックが起きたのは、日本だけだったのか？アメリカでは、かなりセンセーショナルな動きがあった。各国でどういう報道がされたのか、どういう反応があったのかについても報告がほしい。
- ・妊婦以外の方が反応したからといって、それについて風評被害というのはおかしい。心配事がでてくれば、それを避けようとする心理は当然である。魚は他のものを選べる。価格が下がったからといって、それがあるまじき行為だとみることはできない。
- ・スーパーがなぜ過剰反応するか？その過剰反応を少なくしていくためには、どのような対応が必要かということについて専門に近い村上委員に考えてもらいたい。
- ・流通は安全性だけの問題ではなくて、売れなければいい物であっても売らない。
- ・スーパー等は責任を取らない。すべて生産者に負担がかかってくる。

#### オ 今後の情報提供のあり方について

- ・情報は数値化あるいは記号化された形式の情報と、意義の情報がある。形式の情報はメカジキに水銀がどのくらい含まれているかということ。一方、私たちの日常生活にこ

れがどう関連してくるかというのが意義の情報である。これらは別の問題。行政からの通知では、事実についての形式の情報だけが外に出て、それがどういう意味を持つかということが提供されていない例が多い。国の通知の中で「これらが正確に理解されることを期待したい。」という表現があるが、国は「形式の情報は出しました。後はそれがどういう意味をもって、日常生活にどう生かすかについては、自分たちで考えてください。」と言っているようにとらえられる。都はこのような情報の出し方をしてほしくない。メカジキは週一回までという形式の情報は非常に大切ではあるが、それだけでなく、魚介類のメチル水銀の健康リスクはどのように考えたらよいかということ、「どういう食べ方をしている人は、このような食べ方をしている人は」というように出していった方がよい。

- ・各国の対応は、それほど違いがない。イギリスやアメリカではこのような情報を出してもあまり混乱しなかった。「こういう問題についてはQ & Aをつけなければならない。」「Q & Aにはこのような問題を盛り込まなければならない。」というのを、いつ、どういう委員会で、どういうメンバーで行っているのか、調べて欲しい。すべての場合にQ & Aをつけるべきだということではないはずである。こういうメカニズム、仕組みを真似すべきである。J E C F Aの場合には、委員からQ & Aが必要だという意見が出るのと付録や用語解説などを作ることになる。
- ・情報について、意味をきちんと伝えるということが大切である。国レベルと都レベルとは違う。都ではどういうことができるのか考えていくべきだ。
- ・情報を出すときには、全部のことに気を配らないといけない。ただし、それはなかなか難しい。初めから完璧なものではできないので、まず、ベースとなる科学に基づいた、きちんとしたものがあるべきである。その他に消費者が実際に知りたい内容について分けて作る。
- ・それぞれの専門家や対象によって知りたいニーズが違っている。例えば0157の時に、基本的なリスク情報を厚生労働省のホームページに掲載し、これはこれで役に立ったが、お医者さんだったら抗生物質の使い方、飲食店関係者だったらどの食品が危険でどうやって予防するのか、主婦だったら家庭でできることなどそれぞれ知りたいことが違っている。その人たちに合ったことをださないといけない。分野によっては、知らされても役にたたないこともある。
- ・知りたいことのレベルや内容が対象によって異なる。1つのもので全てを出すということではできない。急ぐことを先に出して、それ以外については、少しずつ作っていけばよいのではないかと。また、消費者向けであってももう少し科学的なことがあってもよい。「なぜ?」ということも少しでも入れた方がよい。
- ・報告書を作った人が当たり前だと思ったことが当たり前でないかもしれない。Q & Aを作るときに、専門知識を持たない人の参加が必要である。質問を受けて、それに応じるという対応が必要ではないか。
- ・わからないことは、わからないといった方がいい。そのために、どのような対策をとっているかということの説明していくとよい。また、この問題から最後には、水銀を含有する魚全般をどのように食べていくかということまで広げた方がよい。このようにして、一つずつレッスンしていくような作業をだしていくのが建設的ではないか。
- ・食品の場合には、ベネフィットとリスクというものを、どのように考えていくかが難しい。食品は身近な問題として、身近な質問に答えるということが大きい。東京都がやる

役割があるのではないか。

- ・リスクとベネフィットのチョイス、消費者が選ぶための情報を両方出していかなければならない。
- ・リスクについての結論を出すときに、不確実なことを調査した事実に基づいて、一つずつ潰していくことが大切。
- ・魚の問題というのは、日本人の生活には欠かすことができないものである。このため、水産関係全般について考えていくことが必要。
- ・不確実なことについては、この部分が不確実であると明確に示す必要がある。現在、不確実なことがあった場合には、大抵、安全性に傾いた結果を出すことになる。そのことをきちんとわかりやすく説明する必要がある。

#### カ 都民からの情報収集について

- ・食品安全ネットフォーラムについては、「都としては初めての試みです。何かお気づきのことがあった場合には、ぜひ教えてください。」というような形にするべきである。
- ・ネットの中で議論をしてもらおうということはいいことだと思う。ただ、ネットフォーラムというだけでは意味がわかりにくいので、フォーラムの目的、特に都民からの意見をいただく議論の場だということをきちんと示した方がよい。
- ・もっと素朴にどういう感じだったか？ということを書いてみたらどうか？あと、簡単な質問でイエス・ノーにして、あとで簡単なコメントをもらうような感じだけにした方が記入しやすい。
- ・問い合わせした内容については、時々まとめてお答えしますと書いておくとよい。よくある質問を答えてあげればよい。そこに入れておけば、いつかは回答が来るという楽しい期待がもてるものである。

#### キ 専門委員会報告について

- ・メチル水銀の国際的な安全性評価について、安全性評価の数値というのが絶対的に正確な数値であるわけではない。これを少しでも越えたからダメだというものではないという説明が必要。今回の基準の決め方については、安全性サイドに傾いた決め方になってしまっている。これらの数値の決められ方や持つ意味について、報告書の中できちんと説明した方がよい。
- ・一生涯食べても大丈夫というADIという言葉が使われているが、ADIをちょっと越えたものを摂取するというのがどういう意味があるのか、ということが国際的にも議論されている。数値の持つ意味を考えるべきである。
- ・次の議論の素材を各委員から出してもらいたい。安全評価の基準値の決め方とそれの持つ意味についても入れる
- ・「なぜメチル水銀の影響が発達時期に出やすいのか。」について入れる。

#### 4 今後の予定

次回の専門委員会の開催予定：10月7日（火）午後1時半～4時

#### 5 閉会